

総合スポーツ祭

帰って来た弦巻さん

1時間40分に及ぶ激闘の末、優勝

心配されたコートコンディションも関係者の懸命の雨乞いが天に通じたか土曜の朝までたっぷり雨が降り、まずまずの状態となった。

男子は参加者32名と、例年になく盛大であった。BEST-4までシード選手が順当にかちあがり、決勝は大方の予想どおり弦巻、橋本両選手の対決となった。

決勝は8G1Sでおこなわれた。前半は橋本さんややリードしたが中盤から弦巻さんが主導権をとり8-7では何回かマッチPをにぎったが橋本さんがよく凌ぎ結局タイブレークとなった。TBに入ってからはいくどは橋本さんがリードし、6-3となり勝負あったかに思えた。しかし、ここから弦巻さんの驚異的な粘りと精神力で再び6-6に追いつき、結局そのまま8-6で決着がついた。100分に及ぶ激闘であった。

両選手の秋川オープンでの活躍が期待されます。

女子は小黒さん初優勝

女子は現役高校生4名を含め10名の参加で行なわれ、小黒さんが、柳沢、正路、佐々木さんと、強豪を次々と倒し初優勝した。当日は役員活動と併せての活躍で、本当に疲れさまでした。

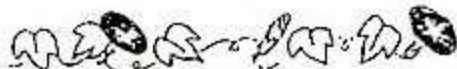
(尚、本大会のドロー表は次号に掲載します)

連盟最年長の戸部さん

100才トーナメントで優勝

第26回総合スポーツ祭の壮年(100才)大会で最年長の戸部さんが弦巻さんとペアを組み、網中/吉田ペアを取得ゲームの差で上回り、優勝しました。

戸部さん、優勝おめでとう!! 来年も頑張ってください。



国枝さん選手宣誓

第26回総合スポーツ祭の開会式で連盟コーチの国枝さんが体協を代表して選手宣誓をした。

当日は連盟の合宿と重なったためテニス連盟の参加が少なかったが、他の多くの競技選手の前で力強く吠えました。

昭島OP

瀬川コーチ堂々3位

さる7月26日行なわれた昭島オープンで当連盟の主任コーチ瀬川茂樹さんが佐藤さんと組んで、なみいる強豪を相手に堂々第3位に入賞しました。男子の上位入賞は久しぶりです。

瀬川コーチの口癖「膝で打て!」を実践すれば、君の上位入賞も夢ではありません!

女子は柳沢、川村組準優勝

男子に先立って行なわれた女子の部では、市民大会の優勝ペア柳沢、川村組が見事に準優勝の栄誉に輝きました。おめでとう。

太田杯は残念ながら緒戦敗退

8月1日行なわれた都下市町村庭球協会主催の団体戦(太田杯)は1回戦で昭島と対戦し、残念ながら2-5で敗れました。暑期中、監督、選手の皆さんご苦労様でした。



力をつけた夏の合宿

夏休み最後の8月29、30日の2日間、富士五湖の最西端の「ペンション本宿」で恒例の特訓合宿がおこなわれました。

参加者は16名(内女性5名)と少なめでしたが、東京の暑さが信じられないような、湖畔の涼しいコートで天候にも恵まれ、じっくりと実力をつけてきました。

特に2日間の全試合に臨んだ、有路家の御曹子マーチャンの華麗なプレーは精悍な容姿とあいまって、女性ファンうっとり。

また、テニスを始めて3回目の小松ツンの成長も目を引きました。三人娘に可愛がられて、うれしそうに玉とたわむれていたのが印象的でした。

夜はケイ&サブのデュエット、プロ真っ青のスイート中田の美声、リンダ秀子ちゃんのパフォーマンスと、とどまるところなし。とまれ面白くも、楽しかった(涙の出るような)合宿ではありません。

(そういえばコートにあまり姿を見せなかった、Oさん! 快適な避暑合宿で、夏の疲れはとれましたか?)

帰りの高速も思ったより渋滞もなくスムーズで、菊池常、福田両幹事に感謝、感謝、本当にご苦労様でした。

(あ、次回が待とうい)

硬テ連、体協の表彰受ける

当連盟の日頃の活躍と市民へのスポーツ普及活動が顕著だとして体育協会から表彰をうけました。(8/29)

秋川オープン予定変更とお願い

今年の秋川オープンは、中央公園の工事が始まるため、一部予定を変更して下記の日程にて実施します。会員の皆様のご理解と、ご協力をお願いします。

- 11月7日(土) 女子第1日目
8日(日) 男子第1日目
14日(土) 女子予備日
15日(日) 男女第2日目または男子予備日
23日(祝) 予備日

以上いずれも総合グラウンドです。



本のご案内

1. 「大島テニスの20年」

「男がテニスをやっておかしいのかなー」

大西外美夫 編著

(¥=1,200)

大西さんと大島テニス連盟の悲喜こもごもの20年史。2人のお子さん(美帆、亮)がテニスと共に成長してきた過程、特に親子の間の葛藤、周りの人たちとの交流等いきいきと書かれています。

また秋川との交流にも多くの頁が割かれています。

大西さんの「テニスへの情熱」がほとぼしる名著。

2. 「世界テニス行脚 ロマンの旅」

太田芳郎 著 石橋良比古 編集

(¥=2,000)

1930年代の日本のテニスが世界的に最も強かった時代に活躍し、現在都下市町村テニス協会(総連協)の名譽会長として、なおご健在な太田芳郎氏の半生記です。

一寸前の国際的に有名な名選手の名前や、テニスの裏話などが書かれており、なかなかの読み物です。

日本のテニス史に興味ある方、必見。

上記2冊共、見本をご覧になりたい方、および申し込みは吉田(58-2232)まで

大島関係ニュース

- 1) : 大西さんが現在大島で、第二のミホ、アキラの輩出を目指してジュニアの育成に奮闘しています。主旨に賛同される方、「ジュニア育成基金」にご協力をお願いします。(特に20年史を手に入れている方よろしく)
まとめ役 大坪容子(59-5958)

- 2) : 大島で関係者を招待して記念大会が行なわれます。秋川の連盟にも招待状が届いています。秋川OP、西多摩大会と重なるため、連盟としては参加できませんが、個人参加を募ります。

日時 : 11月22~23日

参加費 その他詳細は大坪まで

(切り取り線)

当面の予定

- 1) : 市民対象テニス教室(10/1 市公報参照)
日時 : 10月18、25(予備11月1日)
場所 : グリーンスポーツ公園
- 2) : 秋川オープン(11/7~11/23)
- 3) : 西多摩広域行政圏競技会(11/22)
- 4) : 芋煮会(10月後半)
詳細はコートサイドにて
- 5) : 納会(12/19)
詳細はコートサイドにて

コート界隈

セルフジャッジ : 前述の太田先生の本の中にセルフジャッジの話があり、30cmも出たボールを平然と打った下りがある。それほどではないにしても「疑わしきはin」の精神をもう一度噛みしめたいものだ。
「勝負に厳しい」とは自己に対してであり、相手のボールに対してではないことを。

録画 : 前号にグリーンスポーツ公園の下の方の録画機が壊れたいきさつを書いた。理由は簡単で、せせらぎをなくして、U字溝にしたことだと思う。

先日の市議会公報にこんな記事があった。

「虫の里つくりのため、夜視団を広島県呉市に派遣」

...何やってんだらうね。

(マッチ/ポンプ? いやむしろこの場合はポンプ/マッチと言うべきか)

還迎 : 現在日本は出口の見えない長い不況に喘いでいる。振り返ってみれば、戦後47年間の間に幾度も不況を、日本人はその工夫と勤勉さで乗り切ってきた。特需(朝鮮、ベトナムなど)の幸運もあった。しかしなによりも戦後最高のパートナー米国の物心両面の援助のおかげであることを忘れてはならない。

世界的に孤立している現在、日本に真のパートナーはいない。いわばシングルス戦と同じで自らの力で打開せねばならない。この苦境をいかに乗り越えるか、日本にとって、日本人にとっての正念場である。

かといって悲観的になることはない。別の見方をすればピンチの時こそチャンスと考える。世界の中での日本の役割をしっかりと見据え、真の民主主義、国際性を身に付ける絶好の機会とも言えよう。来るべき21世紀を豊かな地球、住み良い街にするために。

編集後記に代えて(よ)

原稿募集

次号は総集編(年間全成績、会員の声、名簿等)を予定しています。下欄に会員皆さんの声をお寄せ下さい。

勝った試合、負けた試合、来年の抱負、家族 友人 恋人の事、その他なんでも結構です

(締切11/15 近くの役員まで)

氏名: